



全国公立学校教頭会通信 第6号

きずな

令和6年度 全国公立学校教頭会研究大会
高知大会 第4分科会

発行 令和6年9月1日

全国公立学校教頭会 広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： zenkokyo@kyotokai.jp

HP： <https://kyotokai.jp>

令和6年度、『第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会』が、7月31日～8月1日に開催されました。全公教広報部も各分科会に参加しましたので、取材した概要をお伝えします。

第4分科会 組織・運営に関する課題①

■提言一1 茨城県小美玉市立美野里中学校 教頭 田山 恵子 先生

■提言主題 (サブテーマ)

「地域とともにある学校を目指すための教頭の関わり」ー学校運営協議会の設立とその充実を通してー

■概要 (発表)

学校運営協議会の設立や運営推進に教頭がどのように関わるべきかという研究のねらいのもと、各校の特色ある活動と教頭の役割として①学習支援、②環境推進、③地域連携・安全安心、④文化・伝統の継承の4つの柱の取組と教頭の役割について紹介された。

成果として、教頭自身の当事者意識が高まった、各校の成果と課題が共有できた、教頭会と社会教育主事の連携を密にできたことが挙げられた。

課題としては、推進役としての教頭の負担が大きい、保護者や学生ボランティアの参加を進めていくこと、学校運営協議会の活動を継続させていくために、何をどのように残していくのかということが挙げられた。

■グループ協議の様子



学校と地域の連携・協働を目指し、持続可能な学校運営協議会の維持に向けた副校長・教頭の役割を柱に自立、協働、創造に触れながらグループ協議を深めた。

どうすれば持続可能な学校運営協議会を推進していく教頭・副校長の役割となるのかという視点での意見が多かった。地域と手を取り合ってコーディネートしていくことが大事である。小規模の学校では地域のニーズを受け止めないといけない、逆に都市部の学校だと地域に求めすぎはいけない部分があり、どのようにバランスをとっていくのが大事である。方針を練ったうえで、形を変えながらの運営や教職員、子ども、保護者に理解してもらうためにどんな工夫をしていくか等が大事なのではないかな等の意見が挙げられた。

■指導・助言

○高知県中部教育事務所 熊岡 彰先生

・学校運営協議会の社会的背景や教育上のメリットについてお話があった。提言の各学校の取組については、学校・地域互いがWinWinになるように留意されているとのお話をいただき、地域とのバランスが大事であること、共に創り上げているという柔軟な発想が大事であること、そのことが児童・生徒の成長につながっていること等のお話があった。持続的・発展的な活動に向けて、地域コーディネーターの必要性、地域学校協働活動推進員の配置等についてお話いただいた。

○北海道札幌市立清田小学校長 稲上 敏男 先生

・提言を踏まえ持続可能な学校運営協議会の運営の仕方についてお話をいただいた。形をつくるよりつながりをつくること、コーディネーターの人選、地域の信頼を得ること、地域の目線で考えてみることの必要性、学校も地域もプラスになっていくようにそれぞれに役割を果たしていくという視点が、持続可能な学校運営協議会となっていくために大切であるとお話をいただいた。

第4分科会 組織・運営に関する課題②

■提言一2 香川県丸亀市立南中学校 教頭 岡野 隆伸 先生

■提言主題 (サブテーマ)

「楽しい学校・学級づくりを目指す組織・運営の在り方と教頭の役割

—帰属意識を高めるトルネードマネジメントの実践を通して—

■概要 (発表)

トルネードマネジメントの視点から、組織・運営の在り方と教職員の組織への帰属意識を高める教頭の役割について紹介された。トルネードマネジメントとは、3人のファシリテーター（改革促進者）による巻き込みから展開し、それぞれが行動派・理論派・調整派としての役割を相互に担いながら改革を広げることである。南中学校の事例として、生徒指導主事、前校長、教頭の3人のファシリテーターを巻き込み「南中プライド」というキーワードをもとに方向性をそろえた生徒指導の取組の紹介があった。また、他校における実践、小・中地域連携による成果についても紹介があった。今後は、丸亀市全体の取組として協働体制の構築に努めたいとの提案があった。

■グループ協議の様子

教職員の帰属意識を高めるために副校長・教頭が果たすべき役割について柱に自立、協働、創造に触れながら、グループ協議を深めた。



それぞれの学校の現状を基にして、トルネードマネジメントをどのように行っていくかという視点で話し合ったグループが多かった。情報の整理と共有をどのように行うかがポイントであること、教職員が働きがいをもつような内容であること、主体性を大事にして教職員にプランニングさせることが大事だという意見があった。

また、心理的安全性やボトムアップ的な取り組みや支援の必要性等について教職員の帰属意識を高めるための様々なアイデアが出された。

■指導・助言

○高知県中部教育事務所 熊岡 彰先生



・丸亀市小中学校教頭会の主題への向き合い方や着眼点の素晴らしさや内容に触れながら、教職員を巻き込む手立てや帰属意識や思いを引き出していく必要性についてお話があった。管理職のベクトルがそろっていること、何のために誰がどう動くか等組織的な取組や、自己決定・実践・評価の必要性について指導、助言をいただいた。

○北海道札幌市立清田小学校長 稲上 敏男先生

・提言については思いを共有して取り組んだことが素晴らしいとお言葉をいただいた。組織を動かすうえで大切なこととして、教職員の信頼を得ること、だれの心に火を付けるかが大事であること、課題と改善策を考えることの大切さ、学校改善プラン等について指導、助言をいただいた。